

せいくと

SELECT

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>



私の仕事術

「ローシャルグッドカンパニー」

私は2008年に新聞販売店として独立し、以降大阪市東淀川区で「いかに地域に愛される新聞販売店になるか」を考えて事業を進めてきました。30分500円で65歳以上のシニアの生活のお困りごとを解決する「いえサポ!」という事業や、子どもたちの無料放課後スペース「しゅくだいカフェ」、勉強がしんどい、家庭環境にハンデがある子どもたち向けに作ったまかない付き学習塾「朝日塾」。そして地域の買い物弱者、フードロス、生活困窮者の3つの課題を同時に解決する循環型地域食堂「ばんざい東あわじ」などです。

当初は「いかに新聞販売店を生き延びさせるか」という視点で事業展開していたのですが、だんだんと「地域課題を解決することだけを事業化し、成り立つ会社にできないか」と考え始め、2020年に新聞販売店を卒業し、「ローカル(地域)×「ソーシャル(社会)」を組み合わせた「ローシャルグッドカンパニー」を名乗り、地域のエコシステム(生態系)として幸せの総量が高い地域ビジネスを展開する会社に生まれ変わりました。

今では街を歩けば、おじいちゃんおばあちゃんに「いつもありがとねー」と挨拶され、子どもたちには後ろから蹴られる、幸せな地域企業の代表をさせていただいています。

「小さな経済圏に…大いなる野望」

少し大きな話をすると、これからの日本は人口減、超後期高齢化によってかつての「大量生産大量消費」といったシステムを維持できないと予測されています。小さな経済圏で成り立つ、地域ごとに独自に発展した生態系を作るしかない。その中心的役割を担うのが地域特化した中小企業であり、(株)Snailtrackが、競合が出て来づら

地域課題を
地域企業が解決する

(株)Snailtrack代表 本川 誠



● ほんかわ まこと ●

1976年、大阪府堺市生まれ。4姉妹の父、TPOTシャツの人。(株)Snailtrack代表、2021年にハウスクリーニング業界を革命する(株)エシカルノーマルを創業。



ハウスクリーニング「エシカルノーマル」のメンバー

く、大きくは儲からないけど息の長い商売ができる、「戦わない経営」を実践できれば必ずそれを真似してくれる企業が出てくるはずだと。

最近メディアに出まったり講演活動を受け始めているのはそれが目的だったりします。そのおかげもあって、Snailtrackはたくさんの地域で起業を目指すチャレンジャーたちの居場所になってきています。

いわゆるセーフティネット。「日本はこれからセーフティネットをもっと盤石にすべきだ」と考えることがあります。人生にはたくさんのチャレンジが必要で、だけど空中ブランコで下にネットがなければ誰も練習すらしないでしょ。失敗がイチイチ「死」に直結する国で、発展も安定も望めるわけがないので。独自の生態系を持つ地域がそのセーフティネットになれるように。そんな地域が増えますように。僕は小さな町の小さな企業を運営しながら、いつもそんな大きな野望を抱いているのです。

【宣伝したいこと】

劇薬を使うことが当たり前のハウスクリーニング業界を一新するために、「SDGs時代の全方位エシカルなハウスクリーニング」を起業。

アトピーや喘息、化学物質過敏症の方、ご家庭に小さい赤ちゃん、高齢者がいる、室内でペットを飼っている方などはぜひHPをご覧ください!



社会をつくり直す！

自由に多様に働く

ワーカーズ・コレクティブの可能性をもとめて

アソシエーションだるま舎

～東京ワーカーズ・コレクティブへの参加を歓迎～

和田安希代(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事長)

今、発信したい本を出版

個人事務所「SOHO ダルマ舎」として編集事業をおこなっていたメンバーの一人が、知人・友人たちに声を掛け、ワーカーズ・コレクティブ「アソシエーションだるま舎(以下、だるま舎)」を2021年10月に設立した。メンバーは、女性4人、男性6人、生活クラブ生協やパルシステム生協の元役員、大学を退官した協同組合研究者、出版社「社会評論社」役員、元T新聞記者、社会運動の実践者等々。何より民主的な社会像を描き、活動を続けてきた人たちがばかりだ。

だるま舎の企画編集での最新版は『この暗黒社会に光を!』。著者の瀬戸大作さん(反貧困ネットワーク事務局長)は、「コロナ禍で貧困の世代間連鎖の広がりは政治の責任というしかない」と言い、底の抜けた社会の中で終わりの見えない闘いのレポート。巻頭には小出裕章さん(元京都大学原子炉研究所助教)が、「何より心が貧しいこの国」を寄稿している。地味ではあるが、日本の現実をえぐる骨太な本。

SOHO ダルマ舎での叢書3部作「時代へのカウンターと陽気な夢(労働運動の昨日、今日、明日)」「原発のない女川へ(地域循環型の町づくり)」「西暦2030年における協同組合(コロナ時代と社会的連帯経済への道)」で分かるように、今、発信したい本を出版している。だるま舎では、販売促進のた



だるま舎のメンバー。「社会評論社」に仕事スペースを無償提供され、土曜日を中心に作業や研究会を行う

めにフォーラムを企画し、積極的な営業も事業の計画となっている。

「何を発信したい」かの企画は主に運営会議で、幅広く議論が必要な時は「アソシエーション研究会」で熱心な意見交換が行われる。研究会はメンバーが組み立てるが、幅広い人の参加で自由な意見交換をするという。



熱い思いを持って、仲間と楽しい仕事をする

だるま舎の特徴は運営自体に民主主義を徹底している事。代表はくじ引きでおこない、メンバーが10人以上になる時は、別のアソシエーションを作り、連携するためのプラットフォームを作ることを描いている等は、かつての理論の実証実験の様だ。1960年代の激しい学生運動を経て、多くはその後社会人となるが、流れは二分。民主社会派は生協や産直運動という生産協同組合の設立に向かい、その年代の社会背景が「だるま舎」の核を成す運動となっている。あきらめずに、思う社会を描き続ける熱さが「だるま舎」となった。

「誰も高齢者だとは思ってないよ!」という言葉の通り、青年の頃から一本に伸びたそれぞれの道が今、出会いアソシエーションとなり、事業をすることになった。それぞれが退職後の人生における第3ステージを、今までの惰性ではなく、仲間と楽しい仕事をするを選んだ。そんなことが出来るのは素敵なおことではないだろうか! そんな気持ちにさせられる「だるま舎」は、いわゆる団塊の世代がリタイアした今、多くの特に男性が必要とするような、小さいが注目したいモデルとなるのではないかと思う。

何より働く人の協同組合である「ワーカーズ・コレクティブ」の仲間になってくれたことを歓迎したい。

昨年から今年にかけて、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合に加入した2つの事業所。ひとつは60代～80代の10人限定の編集プロダクトを事業内容とする「アソシエーションだるま舎」。もう一つは30代前半の5人からなる「アーバンス合同会社」。IT関連と、レストラン運営など複数分野を事業内容としている。

2022年10月1日施行の「労働者協同組合法」の主旨である「協同労働＝共に働く」を地で行くような事業所としてこの2つの事業所の組織運営は、緩やかに軽やかに自分たち流の「協同労働」を行っている。もう一つの働き方として多様な協同労働のモデルを数多く作っていききたい。

アーバンス合同会社

～「コシャリ屋コピー」で取材しました～

細谷正子(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合副理事長)
武田一恵(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事)

特技を生かして一人一事業

「アーバンス合同会社(以下、アーバンス)」は2022年4月に東京ワーカーズ・コレクティブに加入。メンバーの西浦勝之さんにお話を聞きに、アーバンスが経営している東京都江東区錦糸町の「コシャリ屋コピー」へ行ってきました。西浦さんには、動画作りの縁で、加入以前に東京ワーカーズ・コレクティブ広報プロジェクトへも参加していただきました。

社名「アーバンス」は、都会的とか様々な機能が集まるという意味です。メンバーは小中の仲間を中心に2015年に設立しました。事業内容は、WEB広告代理業、制作、店舗事業(コシャリ屋、シーシャ屋)、研究サポート事業等、多方面です。現在はアルバイト含め10名。各自の特技を生かして一人一事業を担っています。企業理念は、個性の発揮と連帯です。

法人格に合同会社を選んだのは、設立費用も安く、会社を立ち上げることが簡単であったから。運営は出資者＝経営者で業務も行う、というワーカーズ・コレクティブと近い働き方をしています。将来的に法人格として「労働者協同組合」の取得を考えているとのことでした。

若い世代に協同労働が広がる可能性

始めはキッチンカーでコシャリというエジプトのソウルフード(エジプト版そばめし)の販売からスタート、3年ほど



コシャリ(左)
インスタントコシャリ
も絶賛販売中(右上)



「コシャリ屋コピー」の店内

して錦糸町でお店を構えます。去年1年間は江戸東京博物館にも出店していました。

日本初のコシャリ専門店は、共同代表の1人の柳堀源太郎さんがバックパッカーで各地を歩いた時、エジプトのコシャリにはまって誕生しました。米、2種類の Pasta、ひよこ豆、レンズ豆などにトマトソースをかけ混ぜて食べます。とても美味しいトマトソースで、現地のものより私たちの口にあっていると感じました。たくさんのトッピングメニューが特徴です。お店のBGMもメンバーの作詞作曲、中東のメロディーに乗せてコシャリの作り方の歌詞です。楽しんで仕事をしている様子が伝わります。

すでにワーカーズとの連携として、(N)ワーカーズ・コレクティブコンチェルティエノが運営する「カフェこんちえる」(現在、コロナで休業中)に、金曜シェフとして石高洸司さん(通称コピー)が出演。ACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合の動画制作などを行っています。

今後の展望は、コシャリ店の独立開業支援、若い世代に人気のシーシャ(水たばこ)屋の2店舗目、インスタントコシャリの通販拡大、メニューのリニューアルなど。若い世代に協同労働が広がる可能性を感じました。

既存ワーカーズの新しい動きを紹介 新規事業に挑戦！ 中間支援組織の新設！

地域に根差した事業、ライフサイクルに合わせた働き方、業務の効率化・共有などの課題に取り組んだワーカーズを紹介します。

片付け・リユース事業

「わだち えっさほいさ」が始動！

2022年4月、企業組合ワーカーズ・コレクティブ 轍ケアッシュ（以下、轍ケアッシュ）が、片付け・リユース事業「わだち えっさほいさ」を始めました。

業務内容は、「不用品の引き取り」「実家の片付け」「ため込んだゴミの処理」「重いものの移動や運搬」「サイズダウンするための

家財の片付け」など。生活クラブ生協の配送関連業務の受託事業以外に、地域に根差して働き続けられる職場を全員で作っていこうというビジョンから生まれました。

独自の事務所を小平市小川町に借りてスタート。2023年度中に、小平地域協議会と共に地域福祉の拠点となるリユースショップの開業を見据えた事業計画を進めています。

現在、専従メンバー2名で小平市近郊の福祉事業所への営業を中心にしながら、チラシや口コミによる依頼を1件1件実施しています。

齋藤さんは、「関係団体の皆さまに助けをいただき、また励ましの温かい言葉や応援もいただきながら、試行錯誤し前進を実感できています!!」と、新規事業に意欲的です。小野さんは配送の時のスキルをいかしながら、資源循環を担う事業の展開のために、「少量のお引き取りから重い家具の移動、引っ越しもお引き受けしています

ので、お気軽にご相談・ご紹介お願い致します」と、話します。



「頑張るぞ！ オー！」と、わだちえっさほいさの高藤さん(右)、小野さん(左)



デポーをサポートする

「ワーカーズ・コレクティブ デポサポ」を設立

デポサポは名前の通りデポーをサポートするワーカーズです。

東京には10のデポーがあり、その運営を担うのはそれぞれのフロアワーカーズ。フロアワーカーズの代表者は定期的にフロアワーカーズ代表者会議を開催し、意見交換や情報共有を行っています。2020年より2年間かけて持続可能なフロアワーカーズを目指して現在の課題を整理しました。課題解決のために、10のワーカーズを取りまとめ、自立を促すと同時に、連帯するための中間支援組織「デポサポ」を2022年5月に立ち上げました。

デポサポは、18年のデポーの歩みの中でキャリアを積んできた5人のメンバーで構成しています。フロアワーカーズのより良い職場環境を作り、デポー事業を発展させるために課題解決のスピードを上げ、ワーカーズの目的である、地域の問題解決に取り組んで行くことを目指します。

具体的な事業として、各ワーカーズのシフト労務管理や経理の実務を通して、効率化の支援をします。各ワーカーズの課題に応じた業務支援計画を立て、安定した部門業務が遂行できるようにします。また、生活クラブ東京のデポー事業部と協業し、広報計画を立て、店内POPやチラシの作成やイベント運営などのアドバイスも行います。さまざまな研修を企画し、個別のワーカーズの組織運営の強化にも貢献していきます。

(デポサポ代表 加川佐智子)



読んでみませんか！

『小さな起業で楽しく生きる』

全国各地のワーカーズ・コレクティブの実例を紹介。ワーカーズ・コレクティブのメリットや問題点、働く事への想い、働き方がわかります。また、ワーカーズ・コレクティブの作り方や、運営方法なども解説しています。

出版社：ほんの木 価格：1,400円(税別)

ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.88

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

http://www.tokyo-workers.jp

発行日 2022年8月10日

編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集のもの

年間購読料 600円(年4回発行)